

えんだより

関西大学幼児園こども園

2019.2.18 No.28

第5回 楽しいつどい

～ いろいろな楽器の音色を楽しむ ～

< プログラム >

1. 関西大学交響楽団の学生さん紹介
2. 9つの楽器演奏・・・「関西大学幼稚園こどものうた」
3. 管楽器の紹介・・・ホルン・ファゴット・クラリネット・オーボエ・フルート
それぞれの名前や特徴を聞き、「木星」を演奏してもらう。
4. 弦楽器の紹介・・・チェロ・ビオラ・バイオリン
それぞれの名前や特徴を聞き、「カノン」を演奏してもらう。
5. 木管五重奏・・・「たきび」
6. 子どもたちのうた・・・年少児「冬ごもり」
年中児「こどもはかぜのこ」
年長児「花のうた」
7. 弦楽四重奏・・・「ゆき」
8. 9つの楽器演奏・・・「誰かが星をみていた」



2月15日（金）関西大学交響楽団の学生さんを迎え、楽しいつどいを行いました。今回の「楽しいつどい」は、9名の学生さんがそれぞれの楽器を持って椅子に座り、子どもたちを迎えてくれる・・・という形で始めました。

一番に入ってきたのは年少児でした。（誰だろう？）（何を持っているんだろう？）と興味津々というよりも“釘付け状態”で、席についてからもお兄さんやお姉さん、手に持っている楽器から目が離せない、という様子でした。その後次々に入ってきた年中児と年長児は、（見たことあるなあ）（あれ知ってる！）という様子で、嬉しそうな表情を浮かべながら席についていました。

司会者から、関西大学のお兄さんお姉さんが、大切にしている楽器を持って来てくださったことを聞くと、子どもたちから「バイオリン！」「ギター！」「ウクレレ！」「チェロ！」「横笛！」「リコーダー！」「尺八！」と、知っている楽器や見たことがある楽器の名前が飛び出してきました。和楽器に比べると目にする機会が多い楽器を前にして、少々興奮気味の年中・年長児でした。

楽器を見ながら各楽器についてお話を聞いた後、「木星」と「パッヘルベルのカノン」を演奏してもらいました。子どもたちは、「なんか聞いたことある」、「これ知ってる」等と言いながら耳を傾けていましたが、中には、（知らない）と思った瞬間に興味を持てず気持ちが離れていく姿もありました。これは年齢には関係のない姿のようです。近年、目新しいことには興味を示すけれど、知っているものには興味が薄く、知らないものには興味が持てないという子どもが増えているようです。それを受けて世の中の大人たちは、子どもにどんどん刺激と変化を与えています。玩具・食べ物・遊び・知識・言葉・等々、子どもたちは満腹状態になってはいないでしょうか。

私たちは楽しいつどいのような行事に限らず普段の園生活において、【知らないから興味を持つ。知っているから更に興味が深める。】そんな姿勢で生きていく子どもに育ててほしいと願って保育しています。刺激と変化の激しい生活の中で、子どもが受け身になり、目の前の事柄の表面だけしか味わえなくなってしまっては困ります。些細なことや繰り返しの中で、自ら感じ、味わい、発見し、気付くことの喜びを、今この年齢でたっぷりじっくり体験する時間を大切にしたいと思います。

プログラムの2と8の曲は「楽しいつどい」のためにプロの方がアレンジしてくださったものです。関大幼稚園こどものうたの前奏は“静かに太陽が昇り、大地がゆっくりと暖かくなっていき、新しい今日のはじまりを全身に感じることで、力が溢れ出す”といったイメージで作曲していただきました。9つの楽器が奏でる演奏はとても豊かな感じがして、子どもたちに生演奏を聴かせてあげられる幸せで胸がいっぱいになりました。

きっと子どもたちにもそれぞれにメッセージが届き、心揺さぶられる心地良いひとときになったことでしょう。

第5回 Web 展示のお知らせ

< 展示期間 > 2月27日 ～ 3月28日

< 展示内容 > おもちつき・おみせやさんごっこ（年長組）・豆まき

